

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 1990年の日本の平均寿命は何歳か、書きましょう。

歳

2 1990年、2021年ともに上位、下位の都道府県をそれぞれ書きましょう。

上位		下位	
----	--	----	--

3 2020年の健康寿命の平均は何歳か書きましょう。

歳

4 平均寿命の延びが大きかった地域の取り組みを3つ本文中から抜き出して書きましょう。

寿命格差都道府県で拡大

最大2.9年 生活習慣など影響か

1990～2021年の約30年間で、日本の平均寿命は5・8年延びて85・2歳となった一方、47都道府県で最長と最短の差が拡大

がっていた。健康上の問題がなく生活できる「健康寿命」と平均寿命との差も拡大した。

野村さんは高齢化が一因とみており、「『健康な長寿』の実現が課題だ」と指摘した。

兵庫 寿命延び幅3位

順位	都道府県	死亡率
1	滋賀	49.0%減
2	兵庫	45.5
3	大分	45.4
4	奈良	45.4
5	京都	44.4
43	島根	37.6
44	徳島	37.0
45	福島	35.7
46	青森	35.3
47	沖縄	29.1

※慶応大などの分析による。小数第2位を四捨五入

順位	1990年		2021年		
	都道府県	平均寿命	都道府県	平均寿命	
上位	1	沖縄	80.6歳	1 滋賀	86.3
	2	長野	80.4	2 長野	86.1
	3	島根	80.3	3 京都	86.0
	4	福井	80.1	4 大分	86.0
	5	熊本	80.0	5 岡山	85.8
下位	43	茨城	78.8	43 岩手	84.3
	44	和歌山	78.8	44 徳島	84.3
	45	栃木	78.6	45 福島	84.2
	46	青森	78.3	46 秋田	84.0
	47	大阪	78.2	47 青森	83.4

平均寿命の延びが大きかった地域では、医療へのアクセスや生活習慣の改善、健康を支える仕組み作りなどを積極的に進めたとみられ、チームの野村周平慶応大特任教授（国際保健）は「そうした地域の取り組みを共有することで、格差是正につながる可能性がある」としている。

異なる時期や地域間の比較を可能にするため、人口の年齢構成の違いを考慮して補正した死亡率を算出すると、約30年の間に全国の死亡率は41・2%減少していた。脳卒中や虚血性心疾患による死亡率の低下が影響したとみられる。減少幅が最も大きかったのは滋賀で49%、次いで兵庫の45・5%。最小は沖縄で29・1%だった。

チームは国の人口動態統計などのデータを分析。平均寿命は全都道府県で延びていた。小数第2位を四捨五入した90年の平均寿命は最長の沖縄が80・6歳、最短の大阪が78・2歳。21年の最長は滋賀で86・3歳、最短は青森で83・4歳。最長と最短の差は2・3年から2・9年に広がった。

兵庫の平均寿命は、90年に78・9歳で全国42番目に上がった。21年は85・4歳で15番目に上がった。延び幅は3番目に大きかった。健康寿命と平均寿命との差は、90年に9・9年（平均寿命79・4歳、健康寿命69・4歳）だったのが、21年には11・3年（同85・2歳、73・8歳）に拡大した。野村さんは高齢化が一因とみており、「『健康な長寿』の実現が課題だ」と指摘した。

NIEワークシートのこたえ（2025年3月24日公開）

◆ワークシート「日本の平均寿命(社会)」

2025.3.22 朝刊 3面 解答

1 79.4 歳

2 上位 長野 下位 青森

3 73.8 歳

4 医療へのアクセス 生活習慣の改善
健康を支える仕組み作り (順不同)